

人生百年時代

地域科学部発

令和8年度岐阜大学公開講座

の教養講座Ⅳ

受講料無料

対象／高校生以上

募集人数／100人
(応募者多数の場合は抽選)

2026.

10/10[±]・17[±] 13:30~17:00
(各講義90分)

会場 岐阜大学地域科学部101講義室

プログラム

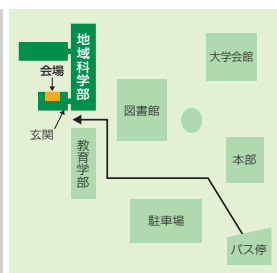
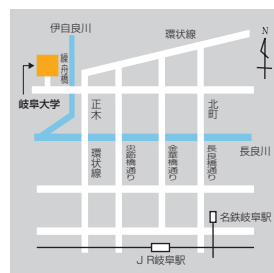
- 神谷 宗明 教 授「身近な現象から見る量子の世界」
鈴木 力 助 教「働き方を考える～非正規率4割時代の非正規雇用の働き方」
峰尾菜生子 助 教「若者は日本社会をどのようにとらえているのか？ 青年期発達から考える」
魏 晨 助 教「越境する日本文学—海外で日本文学はどう読まれてきたのか」

申込方法 申込期限／9月11日(金)

受講を希望される方は、件名を「公開講座受講希望」とし、以下のメールアドレスへ、「住所」、「氏名(ふりがな)」、「年齢」、「電話番号」、「メールアドレス」、「車でのご来校の有無」、「受講予定日:両日又は10日のみ、17日のみ」をお送りください。

E-mail: chiiki@t.gifu-u.ac.jp

※お寄せいただいた個人情報は厳重に保管し、本講座に関する連絡以外の目的では一切使用致しません。



アクセス：JR岐阜駅前、名鉄岐阜駅前から岐阜バスで約30分

申込先・問合せ先

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学 地域科学部 総務係 Tel: 058-293-3002

E-mail: chiiki@t.gifu-u.ac.jp

主催／岐阜大学
企画／地域科学部

人生百年時代の教養講座Ⅳ

10月10日(土) 13:30~17:00

13:30 — 13:35 開講挨拶

13:35 — 15:05 90分 神谷 宗明 教授(物性物理学)

「身近な現象から見る量子の世界」

近年のテクノロジーの進歩により、量子力学で扱われる現象は私たちの生活に密接に関わるものとして存在感を増している。特に、情報通信や医療、材料科学といった分野では量子現象を利用した技術革新が加速している。現代社会を支える多くの技術は、電子や原子の運動、さらには光との相互作用といった量子力学的な理解によって成り立っている。このように、身の回りの現象の背後には量子力学が描き出すミクロな世界が広がっている。本講義では、簡単な実験を行いたいと思います。実験や観察を通して、量子力学で説明される現象を実際に垣間見ることを目指したいと思います。

15:05 — 15:10 質疑応答

15:10 — 15:20 休憩

15:20 — 16:50 90分 鈴木 力 助教(労使関係論、社会政策)

「働き方を考える～非正規率4割時代の非正規雇用の働き方」

1980年代以降、日本社会では非正規雇用が増加を続け、現在、働く人の4割が非正規雇用となっています。従来は職場における補助的な労働者と位置付けられていた存在から、今では職場で中心的な役割を担う存在(基幹的労働者)へと変化しています。中にはコロナ禍で注目されたエッセンシャルワーカーと呼ばれる労働者(社会の平時も緊急時も欠かせることの出来ない職種)の中にも、多くの非正規労働者が存在します。他方で、非正規労働者の待遇改善は現在においても十分ではなく、多くの課題を抱えています。これらの課題を確認しながら、今後の改善方向についても検討したいと思います。

16:50 — 17:00 質疑応答・閉講挨拶



10月17日(土) 13:30~17:00

13:30 — 13:35 開講挨拶

13:35 — 15:05 90分 峰尾 菜生子 助教(発達心理学)

「若者は日本社会をどのようにとらえているのか? 青年期発達から考える」

国政選挙等における若年層の投票率の低さなどから、「若者は社会に関心がない」「若者は社会にかかわろうとしない」と言われ続けてきました。若者は本当に社会に関心がないのでしょうか。関心がないとしたらなぜなのでしょう。若者が社会の担い手として主体的・能動的に生きていくためには、どのような条件が必要なのでしょう。これらの問いを考えていくにあたっては、「そもそも10代20代の若者は日本社会をどのようなものとしてとらえているのか」を明らかにする必要があります。本講座では、青年期を対象にした発達心理学の研究を紹介しながら、若者の社会に対する見方や社会へのかかわり方について考えていきます。

15:05 — 15:10 質疑応答

15:10 — 15:20 休憩

15:20 — 16:50 90分 魏 晨 助教(日本近現代文学、日中比較文学)

「越境する日本文学—海外で日本文学はどう読まれてきたのか」

日本文学は、いま世界各地で読まれ、さまざまな形で受容されている。本講座では、まず海外の書店の写真を手がかりに、現在海外で注目されている日本文学の特徴や広がりについて紹介する。とりわけ近年、女性作家たちの作品は国境を越えて広く読まれ、国際的にも高い評価を受けている。このような状況にも注目し、日本の女性文学を「世界文学」という視点から捉える可能性について考えてみたい。次に、中国近現代文化史において、日本文学がどのように受容されてきたのかを、近代以来の知識人による紹介から戦時期、そして現代に至るまで概観する。最後に、日本文学が越境する際に欠かせない「翻訳」という営みについて、自身の翻訳経験も交えながら考えてみたい。

16:50 — 17:00 質疑応答・閉講挨拶

※ 講師は諸事情により変更の可能性があります。

